二〇二二年四月二三日

渾身の鍬に筍飛び出づる　よう子
花冷えの雨に鎮もる城址かな　素秀
新緑の日の斑を落とす神の森　ぽんこ
来し方に卒寿の春を惜しみけり　宏虎
幾度もネクタイ直す新社員　かかし
悲喜こもごも婚五十年花の膳　たか子
霾りておのころ島は影法師　わかば
父母訪はむ墓辺にすみれ咲きし頃　素秀
千灯す生家にのこる大椿　はく子
ヘルメット脱ぐ長髪に花の風　よし子
水草を隠れ家として蝌蚪群るる　愛正
深山道五彩を競ふ新若葉　こすもす
おほらかに生きて御国へ花の冷　わかば
筍の皮剥く夫のおぼつかな　なつき
つれづれに古書店覗く日永かな　わかば
宮の森躑躅籬に駐車せり　ぽんこ
受洗せし友と語らひ青き踏む　むべ
百千鳥ほつ枝しず枝と忙し気に　はく子

毎週句会秀句・みのる選・二〇二二年四月二四日